

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	無		
体育学部	教授	壁谷 一広				
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
英語Ⅱ (英語応答能力) 英語による基礎的な応答能力向上を目指したブリペアドスピーキングの取り組みの導入	平成29年～現在	コミュニケーションの状況に必要な表現・使い方を学んだ後、それらの表現を類似の状況下で使う練習を通して、想定外の問いかけにもスムーズに答えられる応答能力の向上を目指した。				
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
アクティブラーニング型英語指導の可能性	平成28年8月25日	日本リメディアル教育学会第12回全国大会 (大阪国際大学)				
From Translation to Output: Making Over a Reading Class for Basic to Low-Intermediate Level University Students in Japan	平成28年11月12日	The 25th International Symposium and Book Fair on English Teaching (Chien Tan Overseas Youth Activity Center, Taipei)				
英語授業に取り入れたアクティブラーニング	平成28年8月28日	英語教育実践研究会2017年夏の会 (東京外国語大学本郷サテライト教室)				
Learning Assistance at OUHS	平成30年10月25日	51st Annual CRLA (College Reading & Learning Association) Conference (Hyatt Regency Albuquerque, NM)				
アメリカにおけるライティング支援施設の現状と日本におけるその影響	平成30年3月29日	日本リメディアル教育学会 第12回 関西支部大会 (滋賀大学彦根キャンパス)				
4 その他教育活動上特記すべき事項						
II 研究活動						
著書 (単著)						
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月	
著書 (共著・分担執筆)						
題目/書名	著者/編者	初(始)頁～終頁	発行所	発行地	発行年月	
包括的な学習支援アプローチ期 1990年代中期 - 現代/アメリカの大学に学ぶ学習支援の手引き 日本の大学にどう活かすか	壁谷一広/谷川裕稔	109頁～124頁	ナカニシヤ出版	京都	平成29年3月	
教授法・学習方略の実践 アクティブラーニングという方法/アメリカの大学に学ぶ学習支援の手引き 日本の大学にどう活かすか	壁谷一広/谷川裕稔	136頁～145頁	ナカニシヤ出版	京都	平成29年3月	
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)						
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月	
高大接続システムの方向性とリメディアル教育的実践の応用 (英語教育における高大接続の可能性)	◎壁谷一広、峯島道夫、中村絢子、井上聡、望月好恵	リメディアル教育研究	第11巻第1号	14頁～22頁	平成28年3月	
Effects of Activities Incorporating Spiral Learning in an Active Learning English Reading Class - An Attempt to Enhance the Effect of Active Learning -	◎Kazuhiro Kabeya, Julian Wayne	Bulletin of Osaka University of Health and Sport Sciences	第49号	39頁～55頁	平成30年3月	
体育系学部の学生に効果的な英語授業の特性-質問紙調査と授業実践の分析にもとづいて-	◎望月好恵、壁谷一広、大和久史恵、鈴木政浩	リメディアル教育研究	第13巻	5頁～21頁	令和元年5月	
総説						
題名	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月	
高等教育に求められる教育成果についての考察-教育改善の取組に焦点を当てて-	壁谷一広	函館大学論究	第45輯	77頁～103頁	平成26年3月	
その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)						
区分	題目	著者	誌名	巻	初(始)頁～終頁	発行年月
実践報告	学習成果につながる取り組みの方法論に関する考察-学習支援の観点から-	単 壁谷一広	函館大学論究	第46輯	139頁～159頁	平成27年3月
	How can English Lessons be Turned into Active Learning? - From the Perspective of the High School-University Articulation -	Kazuhiro Kabeya	函館大学論究	第47輯	14頁～22頁	平成28年3月

学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入）						
区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名	
国内(シンポ)	平成28年8月	日本リメディアル教育学会第12回全国大会	英語授業分析の手法と展開2 事例3 リーディングクラスにおけるスパイラル学習の効果	大阪国際大学	壁谷一広	
国内(一般演題)	平成28年8月	日本リメディアル教育学会第12回全国大会	アクティブラーニング型英語指導の可能性	大阪国際大学	壁谷一広	
国際	平成28年11月	The 25th International Symposium and Book Fair on English Teaching	From Translation to Output: Making Over a Reading Class for Basic to Low-Intermediate Level University Students in Japan	Chien Tan Overseas Youth Activity Center, Taipei	Kazuhiro Kabeya	
国内(一般演題)	平成29年8月	日本リメディアル教育学会第13回全国大会	大学・短期大学におけるリメディアル教育の枠組みの再考	日本文理大学	壁谷一広	
国内(一般演題)	平成29年8月	日本リメディアル教育学会第13回全国大会	体育系学部の英語授業に必要な指導の方向性について	日本文理大学	◎望月好恵、鈴木政浩、壁谷一広、大和久恵	
研究会	平成29年8月	英語教育実践研究会2017年夏の会	英語授業に取り入れたアクティブラーニング	東京外国語大学本郷サテライト教室	壁谷一広	
研究会	平成29年11月	英語教育実践研究会・日本リメディアル教育学会英語部会共催第1回研究会	アメリカの大学・コミュニティカレッジにおける学習支援の実態－日本の高等教育への応用を考える－	東京女子大学	壁谷一広	
国際(ラウンドテーブル)	平成30年10月	51st Annual CRLA (College Reading & Learning Association) Conference	The Learning Assistance System in Japan in 2018 "Learning Assistance at OUHS"	Hyatt Regency Albuquerque, Albuquerque, NM	Kazuhiro Kabeya	
国内(一般演題)	平成31年3月	日本リメディアル教育学会 第12回 関西支部大会	アメリカにおけるライティング支援施設の現況と日本におけるその影響	滋賀大学彦根キャンパス	◎長尾佳代子、壁谷一広	
国内(一般演題)	令和元年8月	日本リメディアル教育学会 第15回 全国大会	UNIVAS (日本版NCAA) が日本の学習支援に与える影響(NCAAとの比較からの考察)	金沢工業大学	壁谷一広	
国際	令和元年10月	NCLCA (National College Learning Center Association) 34th Annual Conference	Tutor training programs in Japan and the United States	Hyatt Regency Louisville, KY	◎Yumi Ishige, Kazuhiro Kabeya	
国内(一般演題)	令和元年11月	日本リメディアル教育学会 第2回 授業実践フォーラム・第11回 九州・沖縄支部会	学習支援センターの活動に対する評価を高めるための取り組み アメリカの大学での実践をもとに	沖縄産業支援センター	壁谷一広	
科学研究費等の取得状況						
科学研究費/その他の助成金/外部資金						
区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額(期間内の総額)	
特許						
特許名称	発明者/出願人	出願日/出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国
Ⅲ 加入学会および社会における活動						
期 間	内 容					
加入学会						
平成9年4月～現在	大学英語教育学会 会員					
平成9年6月～現在	日本児童英語教育学会 会員					
平成9年10月～現在	東北英語教育学会 会員 福島支部理事・査読員(平成13年～平成28年)					
平成15年4月～現在	全国英語教育学会 会員 査読員(平成22年～平成25年)					
平成14年12月～現在	短期大学英語教育研究会(平成29年度より英語教育実践研究会) 会員 運営委員(平成18年～現在)					
平成18年10月～現在	日本リメディアル教育学会 会員 理事・東北支部長(平成18年～平成23年)、査読員(平成18年～現在)、選挙管理委員(平成29年～現在)、国際交流委員会副委員長(平成30年～現在)					
令和元年11月～現在	College Reading & Learning Association 会員					
令和元年11月～現在	National College Learning Center Association 会員					
社会的活動						
平成9年6月～現在	実用英語検定試験面接委員(準1級まで)					
Ⅳ 管理活動						
期 間	内 容					
委員会活動						
平成28年4月～現在	研究委員会(平成28年度:在外研究部会、平成29年度:紀要部会、平成30年度:紀要部会、令和元年:在外スポーツ部会)					
平成29年4月～平成31年3月	キャリア支援委員会					
平成31年4月～現在	国際交流委員会					
平成31年4月～現在	入試委員会					

特別プロジェクト活動			
V クラブ活動の指導業績			
1. 指導クラブ名	部	2. 役職	3. 部員数 人
4. 現場指導の頻度	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない		
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数： 日
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			
開催期間	大会名	成績	場所
VI 賞罰 (職務に関する賞罰)			
年 月	受賞等機関名	内 容	備 考
平成29年8月	日本リメディアル教育学会	大会発表優秀賞 (第13回大会)	共同発表「体育系学部の英語授業に必要な指導の方向性について」により受賞